

第14回 国際日本学コンソーシアム ーグローバル化と日本学Ⅱー

国際日本学コンソーシアムは、世界の日本学研究の拠点である大学から教員および大学院生を迎えて、国際的・学際的なジョイントゼミを行い、日本学研究および教育の世界的ネットワークを構築するものです。このコンソーシアムの開催により 21 世紀における日本学研究・教育の国際的連携が一層進展し、緊密な協力関係が樹立されるものと確信しています。

第14回となる今回は「グローバル化と日本学Ⅱ」をテーマに据え、新たな日本学の確立を目指します。

ー参加予定校ー

北京外国語大学北京日本学研究センター(中国)
南カリフォルニア大学(アメリカ)
ワルシャワ大学(ポーランド)
パリ・デイドロ大学(フランス)
国立台湾大学(台湾)
カレル大学(チェコ)
一橋大学(日本)
お茶の水女子大学(日本)

2019年12月9日(月)

11:00～ 開会式
13:30～ 日本文学部会
17:00～ 交流会(於・大学食堂NSSOL Kitchen)

2019年12月10日(火)

10:00～ 日本文化部会
(思想・民俗・文化・歴史)
14:00～ 日本語学・日本語教育学部会
16:40～ 全体会

【会場】お茶の水女子大学

文教育学部1号館1階第1会議室

日本文学部会/日本文化部会/日本語学・日本語教育学部会

※発表順は変更になる可能性があります※

主催:お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 比較日本学教育研究部門

HP : <http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/>

問い合わせ先 : ccjs@cc.ocha.ac.jp

開会式 11:00~12:00

《挨拶》古瀬奈津子(本学・グローバルリーダーシップ研究所比較日本学教育研究部門長)

日本文学部会 13:30~16:45

《挨拶》佐々木泰子(本学・理事 副学長)

司会 大村咲希(本学)

羅小如(本学)「泉鏡花『黒百合』再考」

時新昊(台湾大学)「日本古代における女性の恋愛観—『万葉集』の女性歌人を中心に—」

ヴォザーバル・マテイ(カレル大学)「『奥のほそみち』における歌枕の描写とその有無についての考察」

朱秋而(台湾大学)「岡本花亭と李明五—朝鮮通信使との交流をめぐって—」

ヴェーベル・ミハエル(カレル大学)「『深い河』— 遠藤周作の再発見」

范淑文(台湾大学)「真杉静枝と温又柔の比較研究の試み—グローバル化を視座にして」

交流会(大学食堂NSSOL Kitchenにて) 17:00~19:00

日本文化部会 10:00~13:10

司会 原基香(本学)

ジリアン・パート(南カリフォルニア大学)「平安時代の教育史を考え直す:藤原頼長の学問について」

グレン・イエンジェイ(ワルシャワ大学)「嶋井宗室(1539-1615)に関する史料に見える武士との関係とその意味」

世川祐多(パリ・ディドロ大学)「近世後期の武家における持参金養子~滝沢馬琴の記録から~」

馬場幸栄(一橋大学)「東京女子高等師範学校における天体暦計算動員の概要と背景」

トゥロフスカ・アグニェシカ(ワルシャワ大学)「都市祭礼と神事としての佐原の大祭—変貌する町とイベント—」

潘蕾(北京外国語大学)「グローバル化時代の日本学研究——中国の日本文化研究を中心に」

日本語学部会 14:00~15:00

司会 池田來未(本学)

クルボノヴァ・ムニラ(本学)「美容誌における外来語の特徴」

李月明(北京外国語大学)「日中数量類別詞の範疇化機能の対照研究」

日本語教育学部会 15:10~16:40

司会 チャニカー・チッタラーラック(本学)

伊藤聖子(本学)「口頭産出と作文産出における主題化の違い —I-JASにおけるST・SWを対象に—」

マルタ・トロヤノフスカ(ワルシャワ大学)「『言語における世界観』の利用 — ポーランド語母語話者を対象とした丁寧語の効果的な習得方法について」

大島弘子(パリ・ディドロ大学)「グローバルな認識とローカルな実践—フランスの日本語教育の視点から—」

全体会 16:40~17:10

※発表順は変更になる可能性があります※